

# 幼保小連携におけるスポーツ保育の役割

香村恵介<sup>1)</sup> 日隈美代子<sup>1)</sup>

## The role for sports-based nursing in the cooperation among preschools, nursery schools and elementary schools

Keisuke Komura, Miyoko Higuma

### Abstract

The purpose of this study was to examine the relationships between child raising that we want by the end of infancy and sports-based nursing. Engaging in physical play with their friends rather than playing alone might be effective to develop "cooperativity", "sense of morality and normality consciousness", "relationship with social life", "delivering verbally" and "fertile sensibility and expression". Moreover, "sense of thinking" and "interest and sense of quantities, figures, signs and letters" might be raised through nursery teachers promote children's ideas or make children interested in numbers and shapes during their physical play. Furthermore, playing actively in nature might raise "relationship with nature and respect for life". In conclusion, it is important for the cooperation among preschools, nursery schools and elementary schools that nursery teachers positively promote children's physical play during childcare. Thus, Sports-based nursing might be helpful for that.

**Keywords:** physical play, young children, sports-based nursing

### I. はじめに

2017年、幼稚園教育要領、保育所保育指針および幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂された。今回の改定では、幼児期において育みたい資質・能力の明確化がなされ、図1に示すような「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿<sup>1)</sup>」が明示されたことが特徴的である。これらの姿を保育士と小学校の教師が共有することで、幼児期と小学校教育との円滑な接続や連携につながることを期待されて

いる<sup>2)</sup>。

しかし小学校では、1年生が授業中に立ち歩いたりし、教員の話に集中できず、授業など学級活動が成立しない状態、いわゆる「小1プロブレム」が2000（平成12）年頃から知られるようになってきた<sup>3)</sup>。また、健康に関わる課題として、小学校生活を送るために必要な生活習慣が身につけていないことや運動技能の獲得不足も指摘されている<sup>4)</sup>。このように、幼児期から児童期への接続には、依然

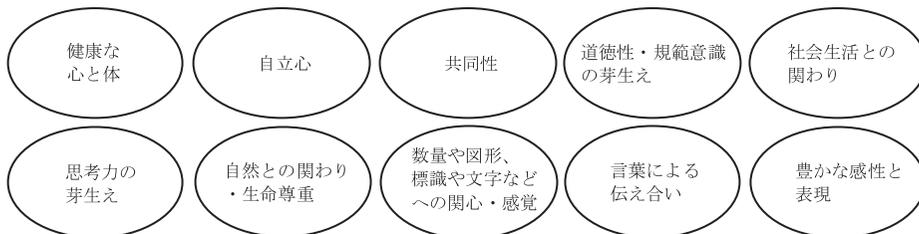


図1. 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿  
幼稚園教育要領解説<sup>1)</sup>をもとに筆者が作図

1) 静岡産業大学経営学部  
〒438-0043 静岡県磐田市大原1572-1

1) School of Management, Shizuoka Sangyo University  
1572-1, Owara, Iwata-shi, Shizuoka

としてギャップがある。

上記のような幼保小連携の課題を解決していくために、幼児期の運動遊びが一つの解決の糸口となる可能性がある。文部科学省は、「幼児にとって体を動かして遊ぶ機会が減少することは、その後の児童期、青年期への運動やスポーツに親しむ資質や能力の育成の阻害に止まらず、意欲や気力の減弱、対人関係などコミュニケーションをうまく構築できないなど、子どもの心の発達にも重大な影響を及ぼすこと」を懸念して、2012（平成24）年3月に「幼児期運動指針」を策定した<sup>5)</sup>。この指針は、幼児期の運動が、単に体力・運動能力の向上や生活習慣の獲得のみならず、意欲的な心や社会性、さらには認知機能を発達させるという多くのエビデンスに基づきつくられた。

このような運動遊びの様々な恩恵を幼児に届け、健やかな心身と豊かな人間性を育むために、「スポーツ保育」という考え方が提唱されている。スポーツ保育とは、「体を使った遊びを基本に、スポーツのもつ良い面を保育に生かしていくという考え方」である<sup>6)</sup>。幼児期にスポーツ保育を積極的に展開することは、小1プロブレムの解消に貢献できるかもしれない。

本研究ノートでは、スポーツ保育が幼保小連携に果たす役割を整理するために、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に、スポーツ保育がどのように関わっているかを検討することを目的とした。

## II. 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿と運動遊びの関係

文部科学省初等中等教育局幼児教育課が参考例として示している「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿<sup>7)</sup>」を整理した上で、それらの具体的な姿に関わる運動遊びの取り組み例を表1に挙げた。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、「健康な心と体」はもちろん「自立心」、「協同性」など10の姿の全てに、運動遊びで取り組みが貢献し得ることが示された。このことから、運動遊びを保育の中で積極的に取り入れてい

くことは、新しい要領や指針で目指す幼児の姿にせまるために重要な役割を果たすことが示唆された。

## III. 幼保小連携とスポーツ保育

前章で、運動遊びが幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に関わることを述べたが、単に幼児期に「体を動かす」だけではそれらの目指す姿に近づくことは難しいと考えられる。大切となるのは、「どのように体を動かして遊ぶか」ということである。10の姿へのつながりを意識すると、運動遊びを展開する時に意識することが見えてくる。

例えば、1人での運動遊びよりも、ペアやグループ、異年齢での運動遊びを行うことで、「協同性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活との関わり」、「言葉による伝えあい」、「豊かな感性と表現」などの姿に迫ることができる。また、競争や協力する遊びを取り入れることで、相手の気持ちを考えたりする「道徳性・規範意識の芽生え」を育むことにつながる。さらに、保育者や指導者が子どもの自由な発想を促したり、数や図形への関心を持てるような声掛けを取り入れたりすることで、「思考力の芽生え」、「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」も育てることができる。自然の中で自由に遊ぶことで「自然との関わり・生命尊重」といった姿にもつながる。

表2は、2015（平成27）年～2017（平成29）年にかけて、近畿圏の幼稚園、保育所、認定こども園の保育者124名に対して、「あなたの園では誰がメインで運動遊び（体育）を指導していますか？」についてアンケート調査した結果である。幼稚園では40%の園が体育専門の指導者を配置している一方で、保育所では約80%の園で担任が中心で運動遊びを展開している現状がある。

このことから、幼児期の子どもに関わる保育者が、10の姿につながるような運動遊びを積極的に保育に取り入れていくことが幼保小連携のために重要な役割を果たすと考えられる。スポーツ保育という考え方を学ぶことは、その一助となるだろう。

表1. 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿の参考例と運動遊びでの取り組み例

<b>健康な心と体</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体を動かす様々な活動に目標をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ちを切り替えて乗り越えようとしたりして、主体的に取り組む。</li> <li>・いろいろな遊びの場面に応じて、体の諸部位を十分に動かす。</li> <li>・健康な生活リズムを通して、自分の健康に対する関心や安全についての構えを身に付け、自分の体を大切にすることをもち。</li> <li>・衣服の着脱、食事、排泄などの生活に必要な活動の必要性に気付き、自分でする。</li> <li>・集団での生活の流れなどを予測して、準備や片付けも含め、自分たちの活動に、見通しをもって取り組む。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「○○ちゃれんじかーど」などを作成し、目標をもって取り組む。</li> <li>・多様な動きが経験できるような、色々な体の部位を動かす遊びに取り組む。</li> <li>・たくさん体を動かすことで、お腹がすいてよく食べ、疲れてよく眠るという健康的な生活リズムになる。</li> <li>・競争などで勝ち負けを経験することを通して、うまくいかないことがあっても気持ちを切り替えて取り組む。</li> <li>・運動遊びだけでなく、その準備や片付けも年齢に応じて取り組む。</li> </ul>
<b>自立心</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の流れを予測したり、周りの状況を感じたりして、自分でしなければならないことを自覚して行う。</li> <li>・自分のことは自分で行き、自分でできないことは教職員や友達の助けを借りて、自分で行う。</li> <li>・いろいろな活動や遊びにおいて自分の力で最後までやり遂げ、満足感や達成感をもつ。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動遊びを通して、「できた！」という満足感、達成感をもつ。</li> </ul>
<b>協同性</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな友達と積極的にかかわり、友達の思いや考えなどを感じながら行動する。</li> <li>・相手に分かるように伝えたり、相手の気持ちを察して自分の思いの出し方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら、わかり合う。</li> <li>・クラスの様々な仲間とかかわりを通じて互いのよさをわかり合い、楽しみながら一緒に遊びを進めていく。</li> <li>・クラスみんなで共通の目的をもって話し合ったり、役割を分担したりして、実現に向けて力を発揮しやり遂げる。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループでの遊びを通して、仲間とともに協力・協同する。</li> <li>・クラス単位で運動遊びを計画して、遊ぶ。</li> </ul>
<b>道徳性・規範意識の芽生え</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手も自分も気持ちよく過ごすために、してよいことと悪いこととの区別などを考えて行動する。</li> <li>・友達や周りの人の気持ちを理解し、思いやりをもって接する。</li> <li>・他者の気持ちに共感したり、相手の立場から自分の行動を振り返ったりする経験を通して、相手の気持ちを大切に考えながら行動する。</li> <li>・クラスのみなどと心地よく過ごしたり、より遊びを楽しむためのきまりがあることが分かり、守ろうとする。</li> <li>・みんなで使うものに愛着をもち、大事に扱う。</li> <li>・友達と折り合いをつけ、自分の気持ちを調整する。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢に応じて、ルールのある遊び、ペアやグループでの遊びに取り組む。</li> <li>・競争や協力する遊びを通して、相手の気持ちを考えたり、自分の気持ちを調整したりする。</li> <li>・運動遊びに使用する用具を大切に扱う。</li> </ul>
<b>社会生活との関わり</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生・中学生、地域の様々な人々に、自分からも親しみの気持ちを持って接する。</li> <li>・親や祖父母など家族を大切にしようとする気持ちをもつ。</li> <li>・関係の深い人々との触れ合いの中で、自分が役に立つ喜びを感じる。</li> <li>・四季折々の地域の伝統的な行事に触れ、自分たちの住む地域に一層親しみを感じる。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・異年齢での運動遊び、親子遊び、地域の人との運動遊びなどに取り組む。</li> <li>・地域の伝承遊び、季節の遊び(夏は水遊び、秋は落ち葉などの自然のものを取り入れた運動遊びなど)に取り組む。</li> </ul>

表1. 幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿の参考例と運動遊びでの取り組み例(続き)

<b>思考力の芽生え</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物との多様なかかわりの中で、物の性質や仕組みについて考えたり、気付いたりする。</li> <li>・身近な物や用具などの特性や仕組みを生かしたり、いろいろな予想をしたりし、楽しみながら工夫して使う。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「他にはどんな遊び方があるかな」と問いかけ、物の特性をいかした遊び方やルールを子ども自身が工夫するきっかけをつくる。</li> <li>・環境だけ整えて(例えば、ボールは用意して)、遊び方は子どもに任せる。</li> </ul>
<b>自然との関わり・生命尊重</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に出会い、感動する体験を通じて、自然の大きさや不思議さを感じ、畏敬の念をもつ。</li> <li>・水や氷、日向や日陰など、同じものでも季節により変化するものがあることを感じ取ったり、変化に応じて生活や遊びを変えたりする。</li> <li>・季節の草花や木の実などの自然の素材や、風、氷などの自然現象を遊びに取り入れれたり、自然の不思議さをいろいろな方法で確かめたりする。</li> <li>・身近な動物の世話や植物の栽培を通じて、生きているものへの愛着を感じ、生命の営みの不思議さ、生命の尊さに気づき、感動したり、いたわったり、大切にしたりする。</li> <li>・友達同士で目的に必要な情報を伝え合ったり、活用したりする。</li> <li>・公共の施設を訪問したり、利用したりして、自分にとって関係の深い場であることが分かる。</li> <li>・様々な行事を通じて国旗に親しむ。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外遊びに取り組むなかで、自然や季節を感じる。</li> <li>・散歩や遠足に行った先で、自然を取り入れた運動遊びをする(例えば、影ふみ、かくれんぼ、木の実や草花を取り入れた運動遊びなど)。</li> </ul>
<b>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活や遊びを通じて、自分たちに関係の深い数量、長短、広さや速さ、図形の特徴などに関心をもち、必要感をもって数えたり、比べたり、組み合わせたりする。</li> <li>・文字や様々な標識が、生活や遊びの中で人と人をつなぐコミュニケーションの役割をもつことに気づき、読んだり、書いたり、使ったりする。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・競争で物の数を数えたり、移動できる範囲の広さや移動のスピードを意識したり、四角や丸などの形を意識したりして遊ぶ。</li> <li>・絵、色、文字などに応じて動きが変わるような遊び(例えば、イラストに応じて動きを変えたり、特定の人が移動したり)に取り組む。</li> </ul>
<b>言葉による伝え合い</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の話の内容を注意して聞いて分かったり、自分の思いや考えなどを相手に分かるように話したりするなどして、言葉を通して教職員や友達と心を通わせる。</li> <li>・イメージや考えを言葉で表現しながら、遊びを通して文字の意味や役割を認識したり、記号としての文字を獲得する必要性を理解したりし、必要に応じて具体的な物と対応させて、文字を読んだり、書いたりする。</li> <li>・絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、想像をする楽しさを味わうことを通じて、その言葉のもつ意味の面白さを感じたり、その想像の世界を友達と共有し、言葉による表現を楽しんだりする。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアやグループで作戦を考えたり、言葉で意図を伝えたりする運動遊びに取り組む。</li> <li>・ストーリー性やイメージが加わった運動遊びに取り組むことで、想像したり、その世界を友達と共有したり、言葉による表現を楽しんだりする。</li> </ul>
<b>豊かな感性と表現</b>
<p>参考例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにもちながら、楽しく表現する。</li> <li>・生活や遊びを通して感じたことや考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったり、演じて遊んだりする。</li> <li>・友達同士で互いに表現し合うことで、様々な表現の面白さに気付いたり、友達と一緒に表現する過程を楽しんだりする。</li> </ul>
<p>運動遊びでの取り組み例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音や他者の動きに合わせて動く遊びに取り組む。</li> <li>・ペアやグループでの遊びを通して、友達と一緒に身体表現する過程を楽しむ。</li> </ul>

参考例は、初等中等教育局幼児教育課 (2015) 教育課程部会幼児教育部会 (第2回) 資料3「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿 (参考例)」を引用

表2. 園で運動遊びを中心的に指導する者の内訳

		担任	園の体育 指導者	園外の体育 指導者	その他	合計
保育所	度数	42	1	9	0	52
	%	81%	2%	17%	0%	100%
幼稚園	度数	28	9	12	3	52
	%	54%	17%	23%	6%	100%
認定こども園	度数	13	2	5	0	20
	%	65%	10%	25%	0%	100%
合計	度数	83	12	26	3	124
	%	66%	10%	21%	2%	100%

## 文 献

- 1) 文部科学省.『幼稚園教育要領解説』. 2018. [http://www.mext.go.jp/component/a\\_menu/education/micro\\_detail/\\_icsFiles/afieldfile/2018/04/25/1384661\\_3\\_3.pdf](http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2018/04/25/1384661_3_3.pdf). Accessed 20 Sep 2018.
- 2) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課.「幼稚園教育要領の改訂について－主な改定内容－」. 2017. <http://seiganomori.hoikuen.to/cgi/clip5/img/8.pdf> Accessed 21 Sep 2018.
- 3) 高木友子.「小1プロブレム対策を考える 6～保護者サポーターから見たS市すこやかプラン6～」.『湘北紀要』. 39: 71-82, 2018.
- 4) 春日晃章, 松田繁樹, 中野貴博編.『保育内容健康. 2版』. 株式会社みらい. 2018. pp.18-19.
- 5) 文部科学省.『幼児期運動指針ガイドブック』, 2012.
- 6) 小栗和雄, 山本新吾郎, 山田悟史, 小林寛道.『運動が体と心の働きを高めるスポーツ保育ガイドブック－文部科学省幼児期運動指針に沿って－』. 静岡新聞社, 2014.
- 7) 文部科学省初等中等教育局幼児教育課. 教育課程部会幼児教育部会 (第2回) 資料3「幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿 (参考例)」. 2015.

